

増やしたい息子や娘と高齢者の接触

子どもと別に暮らす高齢者が半数を越え、老後は息子や娘と一緒に暮らすのがよいと考える人は世代を問わず少数派になりました。その背景には医療・年金・介護制度などが整備され、不十分ながらも子どもに頼らず暮らせるようになったことがあります。年寄り夫婦だけの生活はいずれ一人暮らしとなりますが、**15分未満の近くに息子や娘が住んでいる一人世帯高齢者はわずか25%と4人に1人**です。

近くに住んでいなくとも電話や自家用車を使った行き来はでき、そうした**子どもとの接触が高齢者の心の支えや豊かさとなり、老後の安心のより所**となります。早くから別居が当たり前の**欧米ではこうした接触頻度が非常に高く、個人主義的**といわれる欧米人の意外な一面です。それにひきかえ、近年急速に別居がすすんだ**日本では、接触の少ない**のが特徴的です。アメリカ人ではほとんど毎日という人が約40%、週に1回以上を併せると約80%です。それに引きかえ日本では約46%という少なさです。「**少なくとも週1回は当然**」という常識を親子が共有する文化を持てるかどうかは課題です。

